

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	エフビー介護サービス株式会社	代表者	柳澤 秀樹	法人・事業所の特徴	<p>1 個別ケア ひとりひとりが歩んでこられた理解と共感に基づき、笑顔と役割を持ち続けられるように、自立支援を基盤としたケアを行います。</p> <p>2 認知症ケア 認知症の正しい理解に基づき、ひとりの「人」としての尊厳を大切に、その人らしく安心して過ごせる居場所と関わりを提供します。</p> <p>3 看取りケア 穏やかな日々の暮らしの場で安らかな旅立ちを迎えられるように、さまざまな職種のスタッフが協力して、利用者様とご家族に寄り添い支えます。</p> <p>4 地域ケア 住み慣れた地域で安心して最期まで生活が送れるように法人内外の組織住民の方々との連携を図り支援します</p>
事業所名	小規模多機能あったかほ一む坂城	管理者	佐山 邦仁		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	1人	人	人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	もっと職員を外部研修に参加できるように考える。 新しい職員もいるので事業所評価の勉強会を行い、サービス評価の理解に努める。	コロナウィルスの影響で外部研修への参加の機会が少なかった。事業所内における必須研修項目は網羅し、スキルアップに努めることが出来た。	利用者様個々を把握する中で、職員間においても個人差が見られた。	情報収集やケアの方向性に向けて、必要に応じて、センター方式のシート等の活用を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	外部からわかりやすい看板等の設置の再検討。	看板の設置等は困難な為、別の方法での地域への発信を検討し、認知度向上につなげていく。	見学等で対処頂いた方からは、清潔感があるという意見を頂くことが出来た。	今後も、経年劣化等がある箇所は修繕を検討し、利用者様が使いやすく過ごしやすい環境を整えていく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方が参加しやすいイベントを行っていき、お知らせしていく。地域の会議へ出来れば参加を依頼しPRを図る。	参加できる地区行事が少なかったことと、事業所としても、参加していただく行事が計画・実施できなかった。	コロナウィルスの状況を踏まえた上での関わり方を模索していた方が良い。世代を問わず、関わり合いが持てる機会を作っていく方が良い。	近隣の保育園や学校等との交流を検討していく。実際に対面して行う以外でも出来ることを計画し実行する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域資源をもっと理解できるように職員に研修を行い一人一人の地域資源の発掘をしていく。	町内に在住の職員を中心に地域資源の確認を行ったが、資源の活用まで至っていないのが現状。	事業所が所在している御所沢地区のみでなく、他地域の民生委員の方との情報共有を行いながら、地域の把握を深めていった方が良い。	他地区の民生委員の方にも運営推進会議に参加していただくか、運営推進会議の会議録を参照していただくように働きかけていく。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>職員も交代で運営推進会議に出席していく。 地域に対しての困りごとをもっと取り上げて提案していく。</p>	<p>コロナウィルスの影響で書面での開催が大半となってしまった。事業所の職員が複数参加する機会を設けられたが、今後も継続的に参加できるように、検討していく。</p>	<p>地域の問題等も検討していく為に、より多くの方に参加していただける様にした方が良い。</p>	<p>今まで参加いただけなかった、近隣事業所や地域住民の方に案内を送り参加を促していく。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>運営推進会議の際に区長・民生委員に参加して頂いて避難訓練の計画をしていく。 防災・避難訓練を行い、地域の方にも参加して頂ける機会を作る。</p>	<p>地域の方やご家族への参加は行うことが出来なかった。</p>	<p>限られた職員での避難となる為、自治会や近所の協力体制が図れるよう、日頃からの情報共有や交流が必要と考える。 有事の際の協力体制が施設としても図れるような整備が必要。</p>	<p>BCP 計画に沿った訓練計画の中で地域の方にも参加してもらえ る計画を練り込む。 施設における備蓄の確認・検討を行う。</p>